

編集後記

▶ 1月号をお届けします。本年も御愛読下さい。

▶ この記事を書いているとき、ちょうど、鉄鋼大手5社の9月中間決算の発表があつた(11月11日)。急激な円高による販売量の減少に加え、輸出手取り額が大幅に減り、実質赤字は5社合計で1840億円と戦後最悪の業績になり、下期も好転は望めないという。

このような環境のもとでは、鉄鋼協会の運営も当然大きな影響を受けるはずであり、すでに、白松副会長を委員長とする「臨時協会事業検討委員会」が発足し、対応を検討し始めている。どのような結論になるにせよ、明年度予算はマイナス査定を覚悟しておく必要がある。会誌の発行は、協会が学会活動を続ける限り、最重要の事業であり、編集委員会としても限られた予算のなかで最善の努力をつくす必要がある。

▶ これとは別に、8月末に編集・研究両委員会が合同して、若手研究者、技術者の活性化について討論を行

った。基礎研究の重視と新分野の積極的導入を柱として、会誌編集、講演大会のあり方など幅広く検討していくことになっている。

▶ 鉄鋼業をめぐる環境の著しい変化が、協会の学会活動に脱皮——あえてこの表現を使う——を迫っていることを痛感せずにはいられない。

▶ ところで和文会誌の編集委員会は、現在のところ毎月第1金曜に開催され、論文の受理、査読、校閲、会誌掲載、その他関連事項について審議しています。そこでこの後記を読んでいただいた方に耳寄りな話をひとつ。それは、論文を投稿するときは、毎月第一金曜日に間に合うようにすることです。翌日の土曜日では会誌掲載が物理的に原則として1か月遅くなります。(H. S.)

編 集 委 員 会

委員長 坂尾 弘

編集運営委員会

浅野 鋼一	荒木 透	一瀬 英爾	大谷 正康	小野 陽一
加藤 栄一	金尾 正雄	川上 公成	菊池 実	岸 輝雄
小指 軍夫	権藤 永	佐々木 徹	雀部 実	寺崎富久長
原 富啓	細井 祐三	榎本 弘毅	松尾 宗次	松下 幸雄
森 隆資	渡辺 敏			

和文会誌分科会

主 査	坂尾 弘	幹事	菊池 実				
委 員	浅井 滋生	浅野 鋼一	阿部 英夫	綾田 研三	市田 敏郎		
	稲葉 晋一	乾 恒夫	梅田 高照	大河内春乃	大宝 雄蔵		
	大坪 孝至	大矢 清	尾関 昭矢	勝亦 正昭	鎌田 正誠		
	川上 正博	川崎 守夫	河部 義邦	木内 学	岸 輝雄		
	郡司 直樹	坂木 庸晃	坂本 登	雀部 実	佐藤 駿		
	志賀 千晃	下村 隆良	神馬 敬	瀬野 英夫	高橋 政司		
	辻川 茂男	中村 正和	野崎 努	福武 剛	星野 和夫		
	本間 亮介	溝口 庄三	宮崎 亨	三吉 康彦	望月 俊男		
	門馬 義雄	八木順一郎	山口 正治	渡辺 征一			